

白井恭弘『外国語学習の科学—第二言語習得論とは何か』

ウェルズ恵子『魂をゆさぶる歌に出会う：アメリカ黒人文化のルーツへ』

国際コミュニケーション専攻

皆さんのレポート、楽しく読ませていただきました。どのレポートも、課題に真剣に取り組んだ跡が見られました。本に書いてある情報や知識を正確に把握し、自分自身の経験や問題と照らし合わせて読み、真剣に考えるという姿勢は、文章を書き始める場合には欠かせないと思います。

『外国語学習の科学—第二言語習得論とは何か』を読んだ人の多くは、データなど根拠のある著者の記述内容を読みながら、新しい発見に驚いたり、納得したりしながら、自分の英語学習上の問題点を見つけ反省しています。それだけではなく、自分が海外留学などで受けてきた英語教育と日本での英語教育を比較し分析した感想もありました。『魂をゆさぶる歌に出会う』の方では、ほとんどの人がこの本の趣旨をよく理解し、驚いたり感動したりしていて、アメリカの歴史や文化が読書を通じて理解できたのではないのでしょうか。説明を読むだけではなく、もとの歌やお話を探したり、インターネットで歌のパフォーマンスを視聴したりして、理解を深めた人もいました。

両方の本のレポートでの改善点は、【要旨】が本文の抜き出しになりがちなのを自分の言葉にすること、また、各章の全体に目配りして、できれば本全体の目指すことと繋げて章の要旨を読み取ること、です。また、【興味をもった章】についての論述は、印象的な感想や自分の経験との結びつけで終わりがちなので、そこから発展した考察が書けると更によかったですね。「考察」とはどのように導き出すのか、どう書くのかは、入学したらぜひしっかり学んでください。

最後に、レポート作成時のルールについてです。今回提出を求めたのは、まず、自分で選んだ1冊の本の2章分について各300字程度で要約し、次に、それとは異なる1章についてなぜ興味をひかれたのかを600字程度でまとめなさいというものでした。わずかですが、これらの課題の指示にきちんと応えていないものがありました。また、段落の最初の文字を一文字空けるとか、読んだ本の題名やその他の参考文献の出版社、出版年などの情報を明記するするなど、基本のルールが守れてないものもありました。提出する前には、必ず自分が書いた文章を読み直し、課題の指示やレポートの様式に従って書かれているか確認しましょう。

小林ミナ『外国語として出会う日本語』

泉子・K・メイナード『ていうか、やっぱり日本語だよね』

金田一春彦『日本語』（上）

## 言語コミュニケーション専攻

### 1. レポートの形式面について

#### (1) レポートの構成

まず、レポートの課題にしっかり答えていない人が何人かいました。課題に従い、「要旨二つ（300字×2つの章）」と「興味を持った点とその理由（600字）」は最低限従って書きましょう。しっかり対応できている人は、課題や選んだ章ごとに項目立てもでき、読みやすく書かれていました。

一点、残念なのは、どの本を選んだのかを明記していないレポートが数件あったことです。今回、五冊の本の中から一冊を選択しているのに、どれを選んだのかは言われなくても明記する必要があります。レポートを提出するときは、他のコミュニケーション同様に読み手の立場も考え、相手に必要な情報を推測し、適宜書いておくという「読み手意識」が重要となります。大学の授業では、授業態度とは別にレポートなどの提出課題は客観的にその形式と内容で評価されますので、形式も十分注意して書きましょう。

#### (2) 表記、文章を書くときの基本的なルール

段落の冒頭は一字下げる（英文のように大幅に字下げしている人もいました）、パソコンでの漢字変換ミスなど十分見直せているか、などの形式面にも注意を払って書くようにしましょう。また、普通体と丁寧体の混用なども注意して避けるようにして下さい。

### 2. レポートの内容面について

- ・ 各章の要約はしっかりできていました。各章の中で筆者が最も言いたいことは何かに注目し、要約文の最初に書くとより明確なまとめになります。
- ・ 要約だけでなく、本に書いてある内容を皆さんそれぞれの身近な日本語学習者とのやりとりや友達とのコミュニケーションに引き付けて理解できている人も多数いました。普段、何気なく使っている日本語の終助詞、あいづち、文末スタイル、などがコミュニケーション上、実は非常に重要な役割を持っていることを意識してみると、日本語や言語の面白さが見えてきますね。面白いと思ったことは、自分で調べてみましょう。先生に言われたからではなく、ふとした自分の疑問を大切に、調べてみるという学びは、大学での学びの基本となります。

4月から皆さんと一緒に勉強できることを楽しみにしています。